

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 21 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 2 回（9 月：1 回）と少ない状態で経過しました。震源は平成新山直下の浅いところに求まり、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした（9 月：なし）。

・地殻変動の状況（図 1、図 4）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

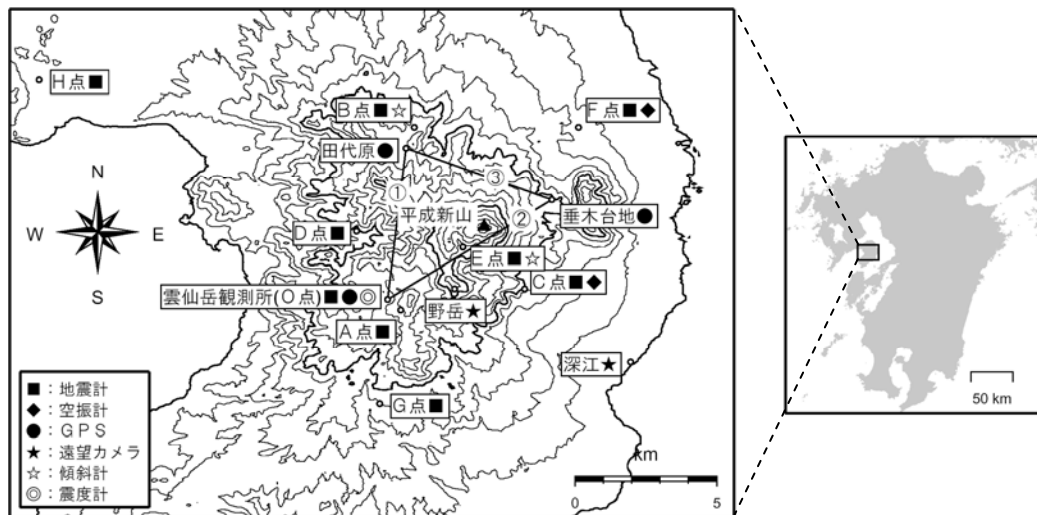


図 1 雲仙岳 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 11 月分）は平成 21 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

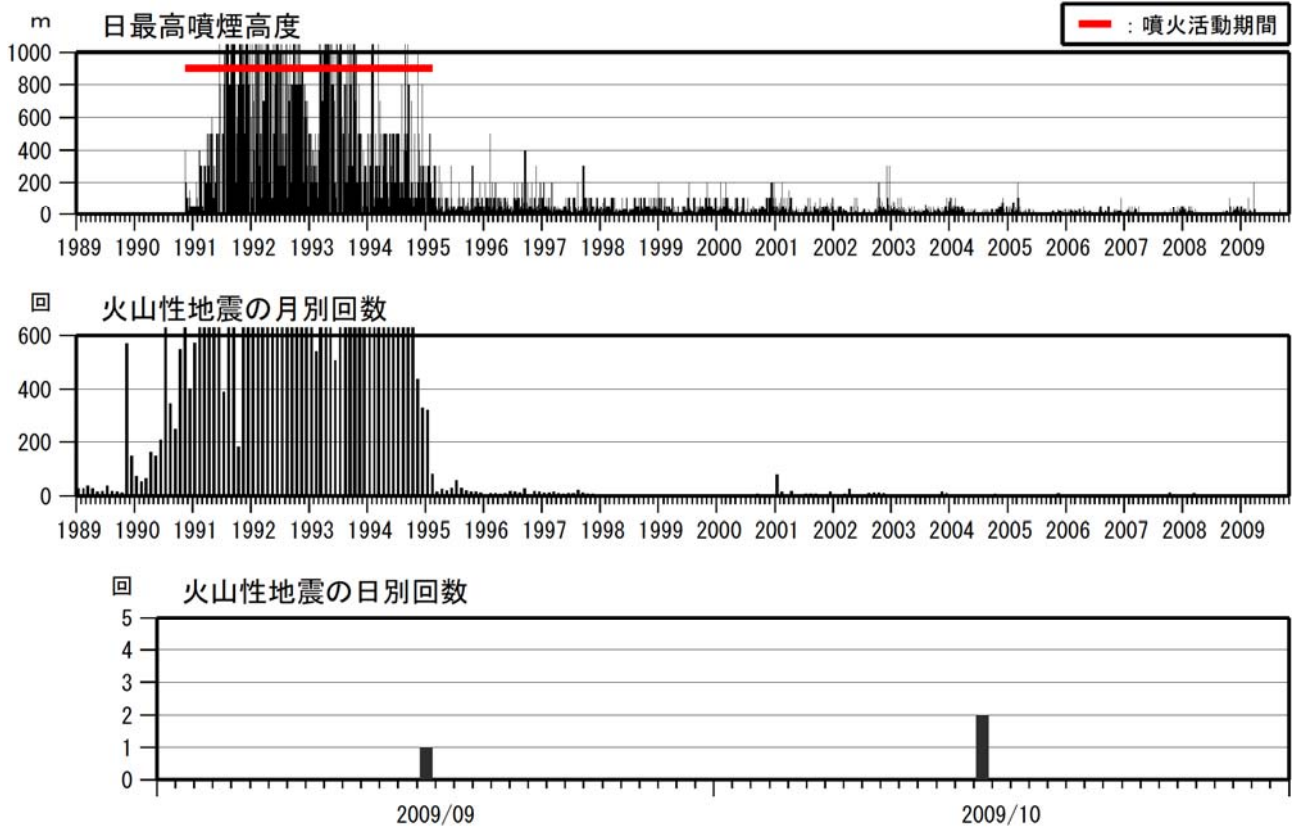


図 2 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2009 年 10 月）
 1995 年 2 月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

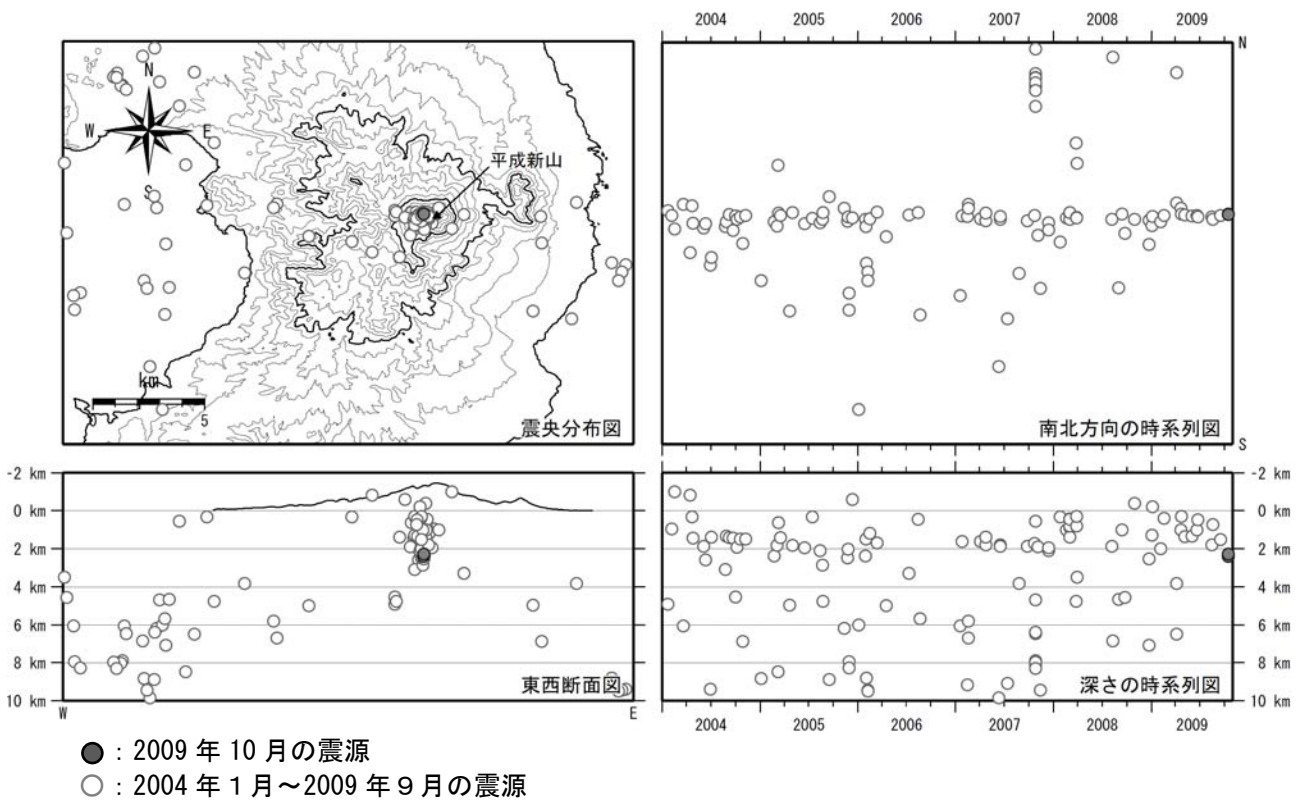


図 3※ 雲仙岳 震源分布図（2004 年 1 月～2009 年 10 月）
 <10 月の活動状況>
 火山性地震の震源はこれまでと同様、平成新山直下の浅いところに求まりました。

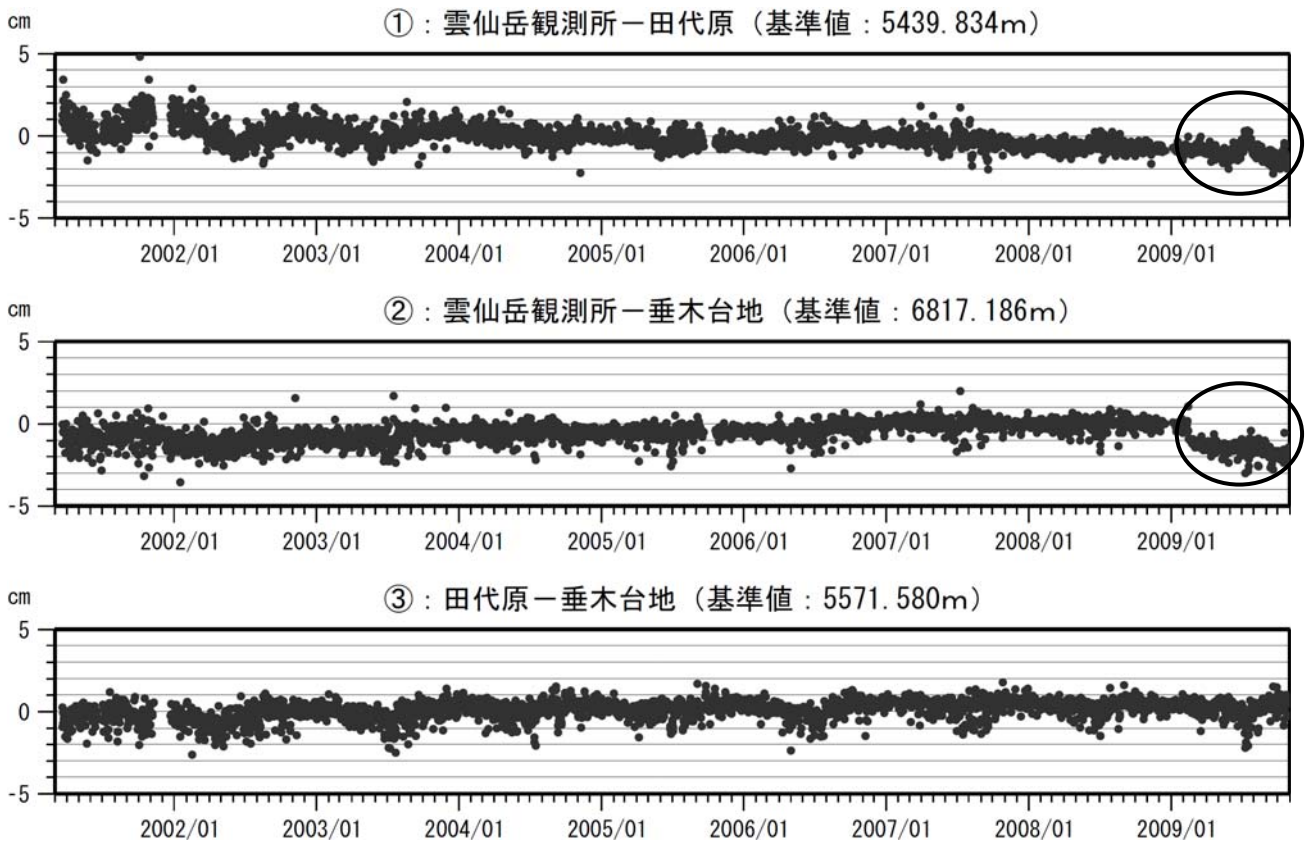


図 4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2009年10月）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 1 の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる2月からの変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動の可能性が考えられますが、詳細な原因については調査中です。